

【リーダーの育成、ボランティア活動への参加】

Cさん： 高知県全体で、知事が頑張ってくれています。リーダーが変わると、これだけ県の雰囲気が変わるのかと、実感しているのですが、なのに、高知県がリーダーを育成するシステムがありません。中内県政時に、リーダーを育成しなければいけないと、20から25歳の青年を中心に、「青年の船」というものを作りました。そこで頑張った人間が、今、県下全域の様々な分野でリーダーとして活躍しています。しかし、それ以降、高知県はリーダーを育てるということをしていない。ここは、我々が育成するにも限界があるので、やはり行政にリーダーを育てて欲しいと思っています。高校生とも座談会をやっているなら、彼らにまちづくりをさせてみるとかすると、その中からリーダーが生まれてくる。リーダーが1人いるだけでも、いろんなことができます。ですから、高知県はそれに対してのお金をもっとつぎ込まなければならないのではないかと思います。

もう一つ、高知の中で自分らでもいつも思っていたのが、表彰制度です。若くても県に貢献した人間を積極的に表彰するような、そういう制度を作って、あんな若い人も頑張ればこうなれると。高知県が、そういう目標とされる人間を育てるような県であればいいと思います。

そして、我々が最も悩んでいるのがボランティアのことです。行政の人間は土日休みがほとんどですが、公務員がボランティアに来ることは滅多にありません。もっと意識付けされるよう、給料の採点にもなるようなシステムであっていいのではないのでしょうか。土日の行事ってものすごく多いんです。そのとき、人手が足りず、リタイアした人の助けだけでは、イベントが限られたものになります。ですので、ボランティアのことは、行政の中で真剣に考えていただきたい。

また、知事は高知の魚はおいしい。それをもっと前に出して、人も呼んでくるとおっしゃっています。ですが、漁協は、盆やゴールデンウィークなどの大型連休のときに休むところが多いです。観光客が、高知に最も訪れてくるそのときに、なぜ休むのか。せっかく来てくれたお客さんに一番おいしいもの食べさせたくても、漁協が休みでは、新鮮な刺身はどこにもないわけです。

連休とか休みが多いときに働く。観光客を高知へ呼ぶのであれば、全体を見つめる人間が県の中にもっといて、考えないといけないと思います。

こんなことが漁協だけではなく他の所でもあるならば、1つずつチェックして、本当の意味でお客をもてなす高知県にしたいというなら、そういう部分から改正していく必要があると思います。

知事： なるほど。1つ、今後の課題とさせてもらいたいと思います。

観光でオンのときに、観光施設や店が休みになるってということが結構多いです。観光客を受け入れる地として、まち全体、市町村全体で、他の人が休みのときだからこそ仕

事をする意識が必要になってくるでしょうね。

リーダー育成のシステムのお話について、表彰制度のことを考えてみようと思います。地域のリーダーとなる人材を育てていくというお話は、確かにものすごく重要だと思います。今回、産振計画の改定の柱として、この人材育成事業っていうのを大幅に強化しようと考えています。

例えば、「目指せ！ 弥太郎商人塾」というのは、集合研修みたいなのを受けていただいた後に「ステップ2」というのがあって、全国的に著名なコンサルタントの人と一緒に、オンザジョブトレーニング（実際の仕事を通して行う職業教育）と講習を受けることになっています。講習のときに宿題を与えられて、それをオンザジョブでやってみて、それをまた、今度講習でやっていく、そういうことを繰り返して、最後は自分で商品開発をして、売れる事業主を育てよう、そういう取り組みなんです。

「農業創造人材の育成」。これは農村振興のリーダー育成をしたいという事業です。

こういう、人材育成をやっていかなければ、例えば補助金がある間はうまくいくけれども、それがなくなった瞬間に取り組みが立ち消えになってしまうことになりかねません。こういう人材育成の取り組みは、ますます強化したいと思います。高知工科大、高知大ともタイアップして、深く学ぶことができるようなかたちでやったり、さらには地域に出て行って、そこで人間力も含めて教えるような講座を設けるなど、したいと思っています。

ボランティアの話、尾崎県政になって、職員の残業が2倍、3倍になってちょっと忙しくなっているんですが、おっしゃるとおりだと思います。

【県内小中学生の受け入れについて】

Cさん： 体験とか磨き上げっていう部分でちょっと提案なんですけど、例えば、まだちょっと自信がないけれども、多少なりとも受け入れはできそうだと地域はあると思うんです。それが旅行商品としてすぐには受け入れられなくても、何回かやっていくうちに磨き上げられる部分があると思います。

小学生とか中学生、高校生の高知県内、香南市であれば海側に住んでいる学生たちが、山のほうへ行っていろいろな体験をする。また逆に、向こうのほうから海の体験をしに来るとか、県内の小中高生の体験の受け入れから始めていけば、県外から観光客を受け入るというハードルが多少、低くなるのではないのでしょうか。また、それとともにステップアップ、磨き上げができるのではないかと考えています。小学生にしても、交流によって、高知県にはこんなものがあるんだという気づきもあると思います。

知事： なるほど。最低限のところはクリアして、例えば安全性とかをクリアしているのを確認した上でということになるんでしょうけど、またそういうことも考えさせてい

ただきたいと思いますし、逆に言うと、小学生だけじゃなくて、県内の、例えば学生や社員旅行などもいいですよ。

【海のイメージ戦略と観光戦略における役割分担】

Hさん： 知事にお願いがあります。高知県がこれから観光で生きていこうというのであれば、是非イメージ戦略で海を売っていただきたい。というのは、例えば、高知といえば四万十というイメージがまずあります。四万十と言えば、四万十でとれるうまい天然うなぎなど、そういうストーリーが自然と都会の人たちの頭の中にはインプットされていると思います。

今、龍馬博をおやりです。高知・龍馬、これも1つのイメージ戦略だと思います。しかし、海に対するイメージ戦略がないのではないのでしょうか。せっかく太平洋に面している地域なので、「南国高知」という、海に対するイメージを何らかのかたちで発信をし、全国的に植えつけていただきたいと思います。

また、西部は四万十川がありますが、東部は今1つアピールが弱い。ジオパークも森林鉄道も僕は面白いとは思いますが。だけど、山・海・太陽の光があってこそ高知県であり、その関連からイメージを作っていただくといいのではないかと考えています。

知事： 分かりました。多分、さっき（高知の強みとして）食・自然・花と言いましたけど、その自然は体験なんです。体験・滞在型ということなんです。単なる自然とかいう漠とした言い方じゃいけないのでしょうか。もっと言えば、高知県に行くんじゃないで、高知の夜須に行くんですから、そういうところから言っても、もう一段突っ込んだ取り組みをすることが必要だと思います。

Hさん： それと、観光の戦略の中で、高知県の観光振興部、コンベンション協会、市町村の観光協会というシステムがあったり、地域創造協議会など、さまざまなシステムがあるんですが、それぞれの役割分担ができてないんじゃないかなと思います。もうちょっと合理的に役割分担をすれば、もっと力が発揮できるのではないのでしょうか。

知事： それはおっしゃるとおりだと思います。ただ、誰もやらない。誰も手つけないという状態よりは、皆がそれぞれ入ってくるという状態のほうが良いと思います。物事が進めば、だんだん役割分担ができてくるのではないのでしょうか。

地域によっては、県のコンベンション協会が全国に向けて売り込みをしてくれます。それには市長が、その地域のホテルの方、さらに実践者の方々も一緒に付いて来られる。その方々を支援員がサポートするなど、役割分担できているところはあります。

きちっと役割分担ができるのが理想だとは思いますが、ただ、まだ観光で滞在型・

体験型で売っていくと、やりはじめた初期の段階ですから、そういう状況が生じるのだと思います。それを意識して、一生懸命考えるのが我々だと思います。

ある意味、リゾート型観光地は大資本が自分たちで開発してくれてやりきるので、うらやましいところはありますが、それでは本県は沖縄やハワイにかないません。

幸い本県には、歴史、評価の高い食文化など、ほかの県にはない強みがあります。ですが、やはり地域の皆さんとも一緒に、全体として観光を盛り上げていくということがどうしても必要となってきます。今は随分、盛り上がりが出てきたように思います。もっと続けていけるよう、努力していきましょう。